

## 平成 28 年度 卒業式式辞

本日、学士の学位を得た学部卒業生 936 名、修士の学位を得た大学院修士課程修了生 186 名、博士の学位を得た大学院博士後期課程修了生 5 名、特別支援教育特別専攻科修了生 11 名の計 1,138 名の皆さんが、2016 年度卒業生、修了生として本学を巣立って行かれます。今年度は、特に、観光学研究科からの初の観光学博士の学位授与者を送り出すこととなりました。皆さんの晴れ姿を大変喜ばしく思います。本当に、おめでとうございます。御来賓の本学後援会の原会長ならびに本学同窓会の青柳会長、列席の理事・副学長・学部長とともに、ご卒業を心からお祝いいたします。また、ご家族、ご関係者の皆様にも、心からお慶び申し上げます。

さて、本日卒業される皆さんの多くは、社会に旅立たれることと思いますが、昨年、10 月に厚生労働省が発表しました新規学卒者の離職状況によりますと、大卒新入社員の 31.9%が 3 年以内で離職するという高い数値となっています。自分の望んだ仕事ではない、責任ある仕事をさせてもらえない等の不平を述べる人が多いようです。しかし、企業などの組織から見れば、新人は見習いであり、企業が望む仕事を一から学ぶ立場です。100%の戦力でない新人に給与を出すわけです。仕事が十分にできない中、責任を持たせることは難しく、何年も



かけて職場の様々な仕事を経験することで、漸く将来の総括的な管理を任せて貰える人材へと成長するわけです。最初から一人前の人はいません。石の上にも 3 年と言いますように、例え希望した仕事でなくとも、まずは任された仕事に真摯に粘り強く取り組み、仕事の腕を磨き、社会人としての自分を磨き、乗り切っていただきたいと思います。

現在、日本では人口減少が止まらず、東京一極集中が是正されない中、国のスローガンとして、地方創生が進められています。その中で、国の注目すべき政策として働き方改革

があり、安倍首相を議長とした会議で様々な議論がされております。しかし、働き方そのものの改革の主体は、皆さんです。受け身の働き方改革ではなく、新しい働き方を創造してください。

野村総合研究所は、英オックスフォード大学との共同研究により、国内 601 種類の職業のうち、10～20 年後に日本の労働人口の約 49%が就いている職業において、それぞれ人工知能やロボット等で代替することが可能との推計結果を報告しています。技術革新とともに、多くの仕事はなくなり、その代わりに新しい仕事は生まれてきます。人工知能を脅威と捉えるよりも、人と人工知能が協調して知的能力を伸ばすチャンスと考えることで、新しい仕事を作り出すことができるでしょう。日本は、人工知能や IoT で Society5.0 と呼ぶ「超スマート社会」を実現することで、誰にでも便利な社会に移行することを計画しています。科学技術は、社会や人の生き方に大きく影響しますが、人工知能を使いこなして、より住みやすい社会を構築する主体は、人間であることを忘れてはいけません。皆さんには、人工知能を駆使した超スマート社会を構築して、夢のある日本を創っていただきたいと思います。



皆さんもご存知のことと思いますが、今年度、東京工業大学の 大隅良典・栄誉教授が、細胞自身が不要なたんぱく質を分解し、リサイクルする仕組みである「オートファジー」の研究でノーベル生理学・医学賞を受賞されました。大隅先生は、長期的な研究の大切さを主張され、若い研究者に「自分の興味や抱いた疑問を大切にしてほしい。流行を追うのではなく、何がいま分かっていない問題かを見極めてほしい」と述べられています。グローバル化の競争の中で、短い期間での成果を求めるのが、社会の趨勢ですが、短期的な成果に翻弄され

るのではなく、長期的な視野で仕事や社会を展望できる人材、粘り強く取り組む人材が求められています。短期的な成果の圧力に対して、一步引いて、自分の置かれている環境を客観的に見ることを心掛けてほしいと思います。

皆さんは、大学で多くのことを学んで来られたことと思います。皆さんには、和歌山大学で学んだことに自信をもって社会で活躍して頂きたいと思います。しかしながら、実社会においては、更なる多くの知識や経験が必要となります。そのような時、母校である和歌山大学を、皆さんの生涯の教育の場として大いに活用して頂きたいと思います。また、仕事だけでなく、人生で躓いたり、悩んだりしたときも、いつでも母校に来て頂きたいと思います。恩師の先生だけでなく、和歌山大学の教職員一同で歓迎し、色々なアドバイスや生きるヒントを提供できることと思います。社会はこれからも大きく変わっていくことでしょう。我々は、その社会の変化に対応すべく日々学び、成長し続けることが求められますが、和歌山大学は、卒業生の生涯の学びの場として、皆さんの更なる学びと成長を応援いたします。また、和歌山大学が大学の問題を乗り越えるときには、卒業生・同窓生の力を借りることもあると思います。そのときは、是非皆さんの力を貸してください。大学も色々な改革により皆さんとともに成長し続けたいと思います。

シェークスピアの言葉に、「人は心が愉快であれば終日歩んでも嫌になることはないが、心に憂いがあればわずか一里でも嫌になる。人生の行路もこれと同様で、人は常に明るく愉快な心をもって人生の行路を歩まねばならぬ。」とあります、是非、卒業後も生活の中に、楽しさを見つけてください。

皆さんが、この時代をしっかりと生き、幸せな気持ちを持って社会で活躍できることを期待いたしまして、式辞といたします。



2017年3月24日  
和歌山大学長 瀧 寛和